

平成28年度 長野県上田高等学校 全日制始業式 校長講話

平成28年（2016年）4月5日（火）

皆さん、おはようございます。

新学期を迎えました。

春のすがすがしい空気の中、例年よりかなり早く「古城の門」周辺の桜が満開です。

何か祝福されているような気がしています。

私は毎日電車で通勤していますが、年度末転勤や卒業などのためだと思いましたが、3月と4月で、電車に乗っている人の顔ぶれが一部変わったように思います。高校の新入生がそこに加われば、車内の様子はさらに違ったものになると思います。

新しい学期が始まったなあと感じます。

さて、10日ほど前、平成27年度の終業式で、高校生活や人生を、1枚のキャンバスに絵を描くことに例えて話をしました。絵はみんな違っていいし、他の人の絵と比べる必要もないが、自分にしか描けないいい絵を描くためにはまずは自分で描きたいと思う絵をしっかりと思い浮かべること、そして実際に自分で絵筆を手にとって絵を描き続けないと絵は完成しないこと、そして、絵を描き続けるためには1日の生活のリズムが大事だということをお話しました。

そして、年度末はちょうどいい「節目」なので、これまでの自分の高校生活を振り返り、こうしたい、こうあるべきだと思うことがあるのであれば、いい機会だからこれを機に自分の生活のパターンやリズムを見直したらどうか、とも話しました。

皆さんはどんな春休みを過ごし、今日を迎えたでしょうか。

昨日までの授業のない「非日常」を終え、今日からまた皆さんの「日常」が始まります。

先日行われたフィギュア世界選手権女子で5位になった宮原知子（さとこ）という選手がいます。

フィギュア選手としては決して体格や才能に恵まれているわけではないのでしょうか、コーチによるとジャンプの1回転もままならなかったのがつい数年前のような気がすると言っています。

それでも、他の人が真似ができないほどの地道な努力を重ね、全日本選手権や四大陸選手権を制し、今回の世界選手権で5位になりました。

天才肌の選手が日本にも世界にも多い中 —もちろん、天才肌の選手もたゆまない努力を

していると思いますが— 宮原選手はミスが少なく、安定感は世界一だという声もあります。地道に積み上げたものだからこそ、揺るがない安定感があるのでしょう。膨大な量の努力の積み重ねに裏付けられた彼女の演技に注目したいと思うようになりました。

上田高校という所はSGHのような他の学校ではあまり体験できないことを含めて、その気になれば、いろんな活動が目一杯できる学校です。そういう環境が整っている学校です。あとは皆さん次第です。

3年生はいよいよ高校生活最後学年、一つひとつの行事に「高校生活最後の」という修飾語が付きます。

運動班の東信大会まであと1か月と少し、松尾祭まで3か月、センター試験までは9か月です。

2年生はそれぞれそこに1年を足したのが残りの時間です。

こういうことを聞くと、焦りが生じがちです。

しかし、焦れば何かが成し遂げられるのであればどんどん焦ればいいですが、焦っても何も生まれません。他の人との比較も必要ありません。自分に何がどれだけできるか冷静に考え、今やれることを毎日地道に積み上げることが大事だと思います。

今日からが新しい日常のスタートなので、ぜひ1日の時間の使い方、即ち、全員に平等に与えられている24時間を、何にどれだけ割り振るか、そしてそれぞれをどれだけ濃いものにできるかを考えて、自らの意志で実行してほしいと思います。

あとで振り返ったときに、「やり切った」というのと「もっとできたのに」というのでは大きな違いです。

私たち教職員は、上田高校の生徒に充実した思い出深い高校生活を送ってほしいと願っていますし、高校を卒業した後も豊かで幸せな人生を送ってほしいと願っています。

ぜひ頑張ってください。

終わります。